

低学年部分科会記録

【授業づくりについて】（武田ゆ）

- ① 役割演技を通して自分の見つめさせる。即興的な演技を自分の目線で考えさせる。
→素直な考えを引き出す。
立場を変えたり、聞き手の考えを聞いたりすることで、考えを深めていく。
- ② 内容項目、今回は友情・信頼。友達がいることのよさを捉えさせる。低学年のうちにはよいモデルを示すことで捉えさせる。

【自評】（我妻）

- ① 役割演技
 - ・友達と木の気持ちを考えさせた。子どもたちはよく発表できていたが、場の設定をもっと工夫すべきだった。動きを加えて言わせるなど。見ている側が一人になってしまうので、聞き手に考えを問うのは難しいと思った。
- ② ワークシート
 - ・具体的に視点を与えて書かせた。実際によく書けていた。話の感想を書いていた子もいた。どのような視点を与えればよいか。ノートにも取り組ませていきたい。

【話合い】

<役割演技>

- ・道徳での役割演技は4回目。慣れが必要。みんなの前で感想を発表しているだけのような感じだった。何を話させたいのか。
- ・立場を明確にすることが大事。
- ・動物といのししでは別な考えがほしかった。いのししは強調するとよかった。
- ・国語でよく使う登場人物の気持ちを吹き出しに書くようなもの。「・・・と思いました。」という発言では、その人物になりきれていない。なりきることは、国語科などで慣れさせることが必要。「うさぎのことばで言ってみよう。」という練習も必要。教科書にない部分を考えさせること。
- ・見ている児童が一人でも、役割演技がどうだったか聞く。あるいは、役割演技しながら、お互いにどう感じたかを話し合わせることもできる。
- ・授業者も役割演技に加わり、演じる。

<ワークシート>

- ・毎回視点を与えて書かせている。
- ・教材とは違うことや自分の体験を書いていけば、多角的に考えていたと評価できる。
- ・罫線の用紙に書くことには慣れている。
- ・「1年生は書けないだろう。」と決めつけてしまわず、書かせることが大事。

<児童評価シート>

- ・こころはっぱの木が虹色になったのは、いのししだけでなくみんなが楽しいという新たな視点をもてたことで、多面的と評価。
- ・自分のことを振り返って書いていたので、自分とのかかわりという観点ではどの子も評価できる。

【指導助言】（ 古積裕一 指導主事 ）

- ・紀要→これまでの成果と課題をしっかりと考えている。
- ・導入で、「どうやって新しい友達ができたか」と聞いたとき、「ドキドキした」という答え。その答えをもっと掘り下げて聞く。嬉しいのか、不安な気持ちなのか。子どもの不安を強調する。
- ・教材の読み聞かせだったが、子どもたちはよく理解していた。指で追って読ませていてよい。
- ・役割演技→自分ごととして考えられたが、即興で演じるのが難しければ、授業者がサポートする。何のために役割演技をするのかをよく考える。
- ・ワークシート→6人全員に発表させたい。そこで評価することも大事。

<参考にしてほしい事項>

- ①指導案のねらい→1時間の方向性が分かるように（学指P4～参照）
- ②役割演技→授業者がよく理解すること、子どもを理解しやすい。環境を大事に。計画的・発展的に積み重ねていく。見ている側の意見も大事にする。
- ③「評価」の記述の仕方→「評価」，「評価計画」か統一を